

音楽アーティスト科 ダンスパフォーマンスコース 受講科目一覧 1年次

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間 45分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
講義	一般教養 I	74	2	4
講義	音楽史 I	74	2	4
講義	音楽理論/調音 I	74	2	4
講義	表現 I	74	2	4
講義	アイソレーション I	74	2	4
実習	歌唱/ダンスパフォーマンス実習 I	74	2	2
実習	演奏 ダンス分野別基礎 I	74	2	2
実習	パフォーマンス実技 I	74	2	2
実習	分野別実習 I	74	2	2
演習	アンサンブル基礎 I	74	2	4
演習	アンサンブル応用 I	148	4	8
合計		888	24	40

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	一般教養 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	一般教養 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/ギター/ベース/ドラム/サウンドクリエイター/ヴォーカルパフォーマンス/ダンスパフォーマンス/アーティスト総合/ネットアーティスト				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴					
授業概要					
<p>社会人として、またエンターテインメント業界を目指す人材として、業界内で必要なコミュニケーション力を身に付けるための授業を行います。コミュニケーション力だけでなく、教養力の深みが芸術創作において多大な影響を与えていくことを把握させ、知識量の増強を図ります。また、一社会人としても人間開発が行えるように広汎な情報を提供します。</p>					
到達目標					
<p>社会人として必須条件である一般教養を身につけ、デビューや就職に向けた準備を万全にしていきます。 将来どのような職業につくにしても人文科学、自然科学、社会科学の三分野の知識を隔たりなく、幅広く修得することが大事だという前提に立って、教養を学んで、自ら問題設定して新しい答えを探ることができるようにします。 また、知識量を効率化し自分に役立つものだけを取捨選択するといった、幅の狭い世界に陥らないような人材を目指します。 併せて、アーティストとして活動する為のノウハウ、音楽業界で活躍する為に必要な知識や情報の提供を行っていきます。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	一般教養についての概略を把握し、教養力の重要性を説きます。また健全な生活リズムの大切さをバイオリズムの仕組みなどを通して理解し、栄養学では食べ物と健康維持の関連性に触れながら安定的な生活を送る上での重要なポイントを学習します。
【前期】 5～8回目	IT技術を通してSNSの長短をはじめとした情報へのリテラシーを学習します。また敬語を通して社会の中でいかに丁寧なコミュニケーションをはかれるかを例題を通して把握していきます。挨拶についてもケーススタディーを通して学びます。
【前期】 9～12回目	プロフェッショナルの定義を通して自らの商品性をエンタテインメント産業においてプロモーションしていく重要性を考えます。各メディア(レコード会社、レーベル、プロダクション(事務所)、音楽出版社)の違いなども認知し、自らにおける将来像の在り方も探っていきます。
【前期】 13～16回目	エンタテインメント産業の構造を理解しながらデビューや自己PRの方法論を解説していくと同時にイベント出演などの方法、また、打合せや企画書制作、プロット制作などを含むステージ作りの具体的なアプローチも学習します。
【前期】 17～19回目	会社構造への理解を深めながら特に会社組織の成り立ちを学びます。その中で礼節に着目し、対人対応の基本である身だしなみ、お辞儀、立ち振る舞いなどを理解していきます。また、社会人として席次や名刺交換のルールにも触れていきます。 ■前期試験:筆記試験にて、前期で学習した内容の理解度を確認する。
【後期】 20～23回目	世界共通語の英語、特に会話に重点を置き日本語圏以外でのコミュニケーション能力のアップをはかります。また、世界地理への知識量を上げながら国外の風土や文化面などの特色も学んでいきます。
【後期】 24～27回目	日本語に着目し、漢字、ことわざ、四字熟語の読解及び使い方など、また現代文を通しては読解力をはじめ文章構成や言葉の味わいを理解し、総合的に国語力を高めていきます。
【後期】 28～31回目	日本の歴史、古代から近世、現代に至るまで年代順に時代の特色を学び、我々の文化的背景を考察していきます。また日本の暦をはじめ歳時記などの四季の事物や年中行事なども理解していきます。
【後期】 32～35回目	音楽、写真、映像など創作物における、著作権者の権利を保護するために認められた権利関係を創作者と大衆視点の両面から理解していきます。また自分の顔や姿、宣材を無断で写真・WEBなどにコピーされたり、それを商業目的に使用されることを拒否する権利を学びます。
【後期】 36～37回目	人生哲学や人生訓に触れながら、いかに良く生きるかを考えていきます。そしてそれらをスピーチ原稿の書き方やスピーチ論を学ぶことを通して自らの生きがいや夢を掘り下げると同時に、他者へ自らの考えを主張する能力を開発する。 ■後期試験:筆記試験にて、後期で学習した内容の理解度を確認する。
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	一般教養は、社会人としての必須条件であり、特に就職希望者にとっては大変重要な知識となります。アーティストとして活動する為のノウハウ、音楽業界で活躍する為に必要な知識を習得し、自身の音楽活動に活かしてください。また、音楽業界に求められる人材として自己をアピールできるように、様々な教養を身につけていくことを目的としています。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	パフォーマンスの歴史と体系 I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽史 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ダンスパフォーマンス				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	・TRFツアーバックアップダンサー、中西圭三LIVE R35 バックアップダンサー ・Jean Paul Gaultier 2012,13ファッションショー振付 上記の経歴を活かし、職業として求められる「ダンスの知識や歴史」の指導を行う。				
授業概要					
ダンススタイルが誕生した背景や音楽、リズムなどの特性を把握し、あらゆるジャンルに精通したプロのダンサーを目指します。特にアメリカ音楽の歴史と共にダンスへの関わりを習得する					
到達目標					
・ダンスへの理解を深める為に音楽のリズムやノリを理解し、ダンススタイル全般への理解が充実する。 ・音楽との関わり方をダンスで表現できるようにする。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	1600年代アメリカの奴隷制度からのフィールドハラー
【前期】 5～8回目	ブルース・Jazz・ゴスペルの歴史とダンス
【前期】 9～12回目	Soul Musicの歴史とダンス
【前期】 13～16回目	Funk Musicの歴史とダンス
【前期】 17～19回目	Disco Musicの歴史とダンス ■前期試験:筆記試験により「前期学習内容の理解度」を評価する。
【後期】 20～23回目	Go Go・New Jack Swingの歴史とダンス
【後期】 24～27回目	HipHop Musicの歴史とダンス
【後期】 28～31回目	House Musicの歴史とダンス
【後期】 32～35回目	日本のダンスの歴史①
【後期】 36～37回目	日本のダンスの歴史② ■後期試験:筆記試験により「後期学習内容の理解度」を評価する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する筆記試験により「理解度」を評価する。
学生へのメッセージ	座学で音楽やダンスの歴史を学べるのは本校だけです。ダンスの認識が深まります。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	コリオグラファーⅠ		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽理論/調音Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ダンスパフォーマンス				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	ダンスチーム Mool(モール)に所属。福岡を拠点に AKB48、KAZU(BROWN SUGAR)、比花知春、Alice、fumika 等のバックアップダンサーをつとめる。2005年よりダンスをはじめ、2014年よりインストラクター、今日に至る。上記の経歴を活かし、職業として求められる「歌唱とダンスの技術、表現力等」の指導を行う。				
授業概要					
<ul style="list-style-type: none"> ・色々な楽曲を使用して、振り付けしたり構成力を身に着ける。 ・振付で使用する楽曲の分析(歌詞の内容や、カウント割りなど) ・幅の広い振付をすることや人に伝える方法を考える。 					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な楽曲に振付ができるようになります。・ダンスの構成力を養います。 ・自分自身が踊ることも、他人を踊らせることもできるようになります。 ・様々なシチュエーションに合わせた振付、構成を考えられるようになります。 ・踊り手の魅力や楽曲の面白さを引き出すための感性を磨きます。 ・多数のジャンルの楽曲や様々なシーンを想定して、振付の引き出しの多さや、引き出す速さを磨きます。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	楽曲の分析、構成や流れを理解する。
【前期】 5～8回目	楽曲の分解、構成を書き出す方法を覚える。
【前期】 9～12回目	楽曲の分解、構成を書き出して振付する。
【前期】 13～16回目	課題曲(テーマ)に合った振付をする。
【前期】 17～19回目	振付を人に伝える方法を覚える。 ■前期試験:オリジナルダンスの創作によって「独自性/完成度」の2項目の到達度を評価する。
【後期】 20～23回目	色々な場面での振付を考える。
【後期】 24～27回目	振付に合わせた構成を考える。
【後期】 28～31回目	振付を見せ合う。
【後期】 32～35回目	総合的に形にしていく。
【後期】 36～37回目	実際に踊ってみる、動画でチェック ■後期試験:オリジナルダンスの創作によって「独自性/完成度」の2項目の到達度を評価する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「独自性/完成度」の2項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	コリオグラファー(振付師)は自分が踊ることは元より、他者を踊らせる、動かす力を身に付ける事が大切だと思います。 この授業を通して踊る事自体を他覚的に理解して、自身の踊りの幅を広げて行けるとと思います。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヒップホップ I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	表現 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ダンスパフォーマンス				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	DA PUMPの全国ツアーに帯同し、振付・サポートダンサーとして出演。 また、テレビCM「TAX」にメイン出演。その他、福岡発のアイドルグループ「LinQ」の総合演出・振付を行うなど、多方面にて活躍中。 上記の経歴を活かし、職業として求められる職業として求められる「ダンスの知識、表現力等」の指導を行う。				
授業概要					
ヒップホップダンスの基礎的なステップとスキルの習得とその基礎知識の理解。自由であるヒップホップは様々な時代、ジャンルやスタイルを取り込んでいるので「オールドスクール」「ミドルスクール」「ニュースクール」の3つに分類されたジャンルを中心に理解し、習得を目指す。(現代的なリズムのダンス、BBOYING、POPING、LOCKINGなど他)					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ヒップホップダンスの基礎ステップやリズムを習得、理解する。 ・様々な曲にのり踊る事ができるようベーシック、リズムやアイソレーションを活かし、幅広いヒップホップにのせて踊る。 ・「オールドスクール」「ミドルスクール」「ニュースクール」に触れ理解する。 ・ジャンル別のステップを踊る事ができる。 ・ヒップホップの曲や年代別の曲で同じスタイルの踊り、多様で自由な踊りを知る事ができる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	様々なヒップホップの曲のリズムを理解、把握。ヒップホップに乗せてリズムやアイソレーションの練習。基礎体力、筋力の上昇の為に筋トレ。基礎ステップの把握、習得。
【前期】 5～8回目	基礎ステップの習得。基礎ステップの組み合わせルーティーンを踊れるよう身に付ける練習。ヒップホップに乗せリズムやアイソレーション、ステップを組み合わせルーティーン、振付を練習。
【前期】 9～12回目	基礎ステップ、必修ステップを習得。多くのバリエーションでステップを組み合わせも身に付ける。ステップ、リズム、アイソレーション、ポージングの組み合わせルーティーンで楽曲のワンコーラスを踊る練習。
【前期】 13～16回目	基礎ステップ、必修ステップの習得復習、クオリティ上げる反復練習。【課題曲1】学んだ内容やプラスαの振付を理解習得。仕上げ、前期テストを通して基礎ステップ、必修ステップの名前やクオリティをチェック。課題曲1の発表。
【前期】 17～19回目	【前期まとめ】実施試験の成果、結果を踏まえて個々へのフィードバックとアドバイス。後期に向けての個々の細かい修正ポイントや、技術向上。体幹作りとアイソレーションをレベルアップアップしたボディーコントロールの練習。 ■前期試験：課題曲を通して、「リズム(ダンス感) / 知識 / クオリティ / ニュアンス」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	前期フィードバックを踏まえ練習、復習、改善。応用ステップを習得。「オールドスクール」に触れ、ヒップホップにも使われる技やステップ、ノリを理解習得。【振付1】それぞれの要素ヒップホップを組み合わせさせた振付を習得。
【後期】 24～27回目	振付1の復習、クオリティ上げ。「ミドルスクール」に触れ、ヒップホップにも使われる技やステップ、ノリを理解習得。【振付2】それぞれの要素ヒップホップを組み合わせさせた振付を習得。ソロやフリースタイル、自由に踊れるよう練習。
【後期】 28～31回目	振付2の復習、クオリティ上げ。「ニュースクール」に触れ、ヒップホップにも使われる技やステップ、ノリを理解習得。【振付3】それぞれの要素ヒップホップを組み合わせさせた振付を習得。ソロやフリースタイル、自由に踊れるよう磨く。
【後期】 32～35回目	振付1.2.3の復習。ソロ、フリースタイルを磨く練習。自分で振付を考えてその場で発表。後期テスト【振付1.振付2.振付3】の中から1～3課題としていた振付の実施。「オールドスクール」「ミドルスクール」「ニュースクール」の中よりステップを実施、ステップ名を答える。
【後期】 36～37回目	【後期・最後まで】後期試験の成果、結果を踏まえたフィードバックと改善アドバイス。レベルアップの為に要素。2年生に向けての、一般的な身体の使い方や細かい自己の身体の動かし方を活かせる為の練習、意識、アドバイス。 ■後期試験：課題曲を通して、「リズム(ダンス感) / 知識 / クオリティ / ニュアンス」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズム(ダンス感) / 知識 / クオリティ / ニュアンス」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ヒップホップは音楽に乗って自由に踊ることが特徴で、ソウルダンスやジャズなど、他ジャンルのダンス要素を取り入れるなど、時代によって新しいスタイルが生まれ、進化してきているダンスです。曲から踊りまで幅広く様々なノリも含めマスターすることで、より自由に楽しく踊る事ができるし、ダンサーの仕事としても必須なジャンルとなります。楽しみながらカッコよく踊れるように頑張りましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ダンスベーシック&アイソレーション I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	アイソレーション I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ダンスヴォーカル/ダンスパフォーマンス				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	・EXILE、TRF等のメジャーアーティストのツアーバックアップダンサーをこなし、自身でもダンサーとして振り付け等を行う。 上記の経歴を活かし、職業として求められる「ダンスの技術、表現力等」の指導を行う。				
授業概要					
HIPHOPのベーシックを中心に、アイソレーション、ステップ、コンビネーションの強化を図ります。 また、ダンスヴォーカルやパフォーマンスを行う上で必須条件となる基礎体力と筋力を身につけるとともに、ダンスの技術(ステップ・アイソレーション等)、リズム感、表現力を養い、完成度の高いパフォーマンスを目指します。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ダンスの基礎を理解するとともに、基礎体力の増加を図ります。 ・ベーシックを中心に課題曲を通して、振付技術の習得を目指します。 ・技術面だけでなく、パフォーマーとしての個性のある表現力を養います。 ・即戦力になるダンサーを目指します。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	・ストレッチ、体カアップ、体幹トレーニングの習得。(身体を動かす身体に整える)
【前期】 5～8回目	・アイソレーション、リズムトレーニングの理解と習得。
【前期】 9～12回目	・HIPHOPベーシックの中心ステップを習得。(ボックス・チャールストン・スマーフ等)
【前期】 13～16回目	・基礎トレーニング強化+習得したステップのコンビネーションを制作。
【前期】 17～19回目	コンビネーションの強化+構成制作。練習後、発表会を行う。 ■前期試験:課題曲を通して、「基礎力 / コンビネーション / 振り付け」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	・アイソレーションのレベルアップと強化。 ・カルチャーステップ習得。
【後期】 24～27回目	・ステップのレベルアップと強化。 ・ロック、ソウル、パンキング等、ジャンル毎のベーシックを習得。
【後期】 28～31回目	・前期に学習したムーブの復習。 ・振り付け制作と練習。
【後期】 32～35回目	・振り付け強化+構成制作と練習。
【後期】 36～37回目	発表会の実施。 ■後期試験:課題曲を通して、「基礎力 / コンビネーション / 振り付け」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「基礎力 / コンビネーション / 振り付け」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ダンスの面白さ、深さ、歴史などについて基礎から学習していきます。 ダンスベーシック、アイソレーションはすべてダンスジャンルに必要なスキルです。 最終段階ではベーシックを中心とした振り付けを自分で制作する。そして、発表出来るようになるまでが目標です。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ダンスヴォーカルユニット I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/ダンスパフォーマンス実習 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ダンスパフォーマンス				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	・防弾少年団 BTS WORLD TOUR “LOVE YOURSELF”-JAPAN EDITION-サポートダンサー ・AKB41stシングル選抜総選挙、北島三郎博多座特別公演 博多座、a-nation opening act & TRFバックダンサー ・BOAアリーナツアーパレードダンサー ・アイドルグループ パピマシェ、パピロジェ振付 上記の経歴を活かし、職業として求められる「歌唱と踊りの総合表現力」の指導を行う。				
授業概要	シンガーが歌ってダンサーが踊ってバックアップという形だけではなく、全員がヴォーカルでありダンサーで同時に行っていく形もとっていきます。一曲ごとにヴォーカルを交代したりローテーションを回す形ではなく、一曲の歌割の中で代わる代わる全員が歌って踊りながらパフォーマンス出来るような技術も意識、習得します。歌も踊りも同時に経験をして、それぞれがアーティストの意識をもっていきけるパフォーマンスを目指します。				
到達目標	・シンガーもダンサーも、お互いの魅せ方、難しさを知る。 ・躍りながら、フォーメーションをしながらマイクの受け渡しなどを体感し、容易にできるようになる。 ・色々な動きや魅せ方をダンスだけ、歌だけでなく同時に行ったり、選択を出来るようにしていく。 ・ダンスヴォーカルとして魅せるパフォーマンス、グループ全体、仲間を感じて一体感のあるパフォーマンスを目指す。 ・歌って踊る、歌いながら踊るを個々にパフォーマンスできるようにする。				
授業計画・内容					
【前期】 1～4回目	ダンスヴォーカルユニットの説明、年間を通してどうやっていくか、イメージ、意識を作る。個々の歌声や特徴を知りつつグループディスカッション。パフォーマンスをするにあたってポイントや要素を学習。リズムやアイソレーションを使ったダンスの基礎練習。声のブレない身体の使い方の学習。【課題曲 1】楽曲の歌詞や主線のキー、ハモリと楽曲振付を覚える。				
【前期】 5～8回目	【課題曲 1】 振付のクオリティを上げてレベルアップ。マイクを回しながら全員がマイクを持った状態での振付意識、学習。実際に歌唱しながらのダンスを実践していきクオリティを上げる。構成フォーメーション・歌割に沿ったパフォーマンスを高める。				
【前期】 9～12回目	【課題曲 2】 課題曲1の内容を踏まえながら、活かしてより良いパフォーマンスを作っていく。マイク受け渡しなど、振付も踏まえて、より高度に練習。構成フォーメーション・歌割に沿ったパフォーマンスを高める。目線や仕草などオーディエンスを意識した練習。				
【前期】 13～16回目	仕上げ、歌や踊りだけでなくフォーメーションもしっかりと仕上げる。【実践形式LIVE授業】仕上げ 課題曲1.課題曲2をオーディエンスが実際にいるステージでのLIVE授業にて披露発表。【ダンスヴォーカル実技】ダンスパフォーマンスをしながら歌唱の実技を確認。				
【前期】 17～19回目	【前期まとめ】 LIVE授業と実技テストで披露した課題曲1.課題曲2の成果、結果を踏まえてフィードバックとアドバイス。後期に向けての個々の修正ポイントや、技術向上。ブレない体幹作りとアイソレーションのレベルアップ。 ■前期試験:課題曲を通して「ヴォーカル / ダンス / リズム・ピッチ / パフォーマンス」の4項目の到達度を確認する。				
【後期】 20～23回目	前期のフィードバックした内容の改善。ブレない身体の技術向上の反復練習。リズムや基礎の向上練習。【課題曲 3】歌詞、ポイントを押さえて歌唱練習。パート分けのローテーション歌唱。振付、構成を覚え、踊りのクオリティを上げる練習。マイク受け渡しも含めて通して仕上げる練習。				
【後期】 24～27回目	課題曲3のダンス、歌唱、フォーメーションのクオリティを仕上げる。【課題曲 4】歌詞、ポイントを押さえて歌唱練習。パート分けのローテーション歌唱。振付、構成を覚え、踊りのクオリティを上げる練習。マイク受け渡しも含めて通して仕上げる練習。				
【後期】 28～31回目	課題曲4のダンス、歌唱、フォーメーションのクオリティを上昇させ仕上げる。選択課題曲1 選んだグループで歌割、練習。課題曲 1.2.3.4.選択1の複数曲でのパフォーマンスを想定した練習。体力向上を踏まえたトレーニング。LIVEを想定したセットリストをディスカッションし練習。				
【後期】 32～35回目	【実践形式LIVE授業】仕上げ 課題曲3.課題曲4をオーディエンスが実際にいるステージでのLIVE授業にて披露発表。【ダンスヴォーカル実技】レベルアップしたダンスパフォーマンスをオーディエンスを意識しながら歌唱の実技を確認。				
【後期】 36～37回目	【後期・最後まで】課題曲3.課題曲4の成果、結果を踏まえてフィードバックとアドバイス。最後に課題選択の複数曲で構成したセットリストの披露。フィードバックとアドバイス。一年間のまとめと個々の修正ポイントや、技術向上。 ■後期試験:課題曲を通して「ヴォーカル / ダンス / リズム・ピッチ / パフォーマンス」の4項目の到達度を確認する。				
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「ヴォーカル / ダンス / リズム・ピッチ / パフォーマンス」の4項目の到達度を評価する。				
学生へのメッセージ	ダンスヴォーカルを通して、歌で魅せる、踊りで魅せるだけでなく、歌いながら踊って魅せるという事をやってみましょう。ヴォーカルだけ、ダンスだけでは気付けない魅せ方やニュアンスなどを同時に学習、習得することができます。歌手であるとともに、もう一つの技術であるダンステクニックと魅せ方を手に入れることで、周りとの差をつけることもできます。そしてダンスヴォーカルグループとしてデビューする場合には大きな経験になります。				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ジャズ I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	演奏/ダンス分野別基礎 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ダンスパフォーマンス				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	・堂本光一主演ミュージカル「Endless SHOCK」、亀梨和也主演ミュージカル「DREAM BOYS」ダンサー出演 ・東京モーターショー、プロモーションビデオ「no more」「RESCUE」ダンサー出演 上記の経歴を活かし、職業として求められる「ジャズダンスの技術、表現力等」の指導を行う。				
授業概要					
ストリート、ファンク、クラブジャズなどそれぞれの独特の身体使いや演出方法を学習しながら、コンビネーション(振付)の中でリズム感を重視したジャズダンスのとらえ方を学んでいきます。パフォーマンスをするにあたり、必要な動きを基礎から身につけます。					
到達目標					
・基礎体力、柔軟性、体幹がなぜ必要なのか理解する。 ・感情を表現することを理解する。体をコントロールしながら、楽曲に合った感情を表現することができる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	基礎の動きの説明と理解。(ひきあげ、アンデオール、ポードブラ)
【前期】 5～8回目	フラットバック、プリエ、タンジュ、デガジュ、基礎の動き、柔軟性、体幹の強化。
【前期】 9～12回目	アンデオールを保ったまま、プリエ、タンジュ、デガジェ、ロンデージャンを身につける。
【前期】 13～16回目	ルルベアップとアテールをしっかり使えるようになる。
【前期】 17～19回目	ジャズの基礎的な動きを用いた振付の練習と前期の振り返り。 ■前期試験:ダンスの実技を通して「楽曲に合った動き / 振り覚え / 理解度」の3項目の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	今までの動きを、片足やルルベや移動しながらスムーズに行える様身につける。
【後期】 24～27回目	つま先から頭の先、指先まで意識しつつ基礎の動きが行えるよう身につける。
【後期】 28～31回目	身体がぶれず、しっかりと床を押してジャンプが出来るよう身につける。
【後期】 32～35回目	ジャズの基礎ターン(ピルエット)を一周左右できるよう練習。
【後期】 36～37回目	一年間の動きを入れた、ジャズの振付の練習と前期、後期の振り返り。 ■後期試験:ダンスの実技を通して「楽曲に合った動き / 振り覚え / 理解度」の3項目の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「楽曲に合った動き / 振り覚え / 理解度」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ダンスに必要な基礎の動き、体幹などを身につけることができます。柔軟性も身につけてくるので様々な動きに対応できるようになります。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ダンスユニット I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	パフォーマンス実技 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ダンスパフォーマンス				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	<p>・ミュージカル刀剣乱舞 ～結びの響、始まりの音～ 2018 アンサンブルダンサー出演</p> <p>・AKB48 41stシングル選抜総選挙、湘南乃風 風伝説 第二章 ～雑巾野郎 ポロボロー 番星 TOUR2015～ 演出、振付、出演</p> <p>・「倉木麻衣 / あしたセレンディビティ」ミュージックビデオ、「CHUCKY / YELLOW MONKEY」ミュージックビデオ出演</p> <p>上記の経歴を活かし、職業として求められる「ダンス技術、表現力等」の指導を行う。</p>				
授業概要					
<p>様々なジャンルや要素に触れながら、ダンサーのみのパフォーマンスや表現をストリートカルチャーやエンタテインメントなど幅広く習得して行く。集団パフォーマンスやソロなど協調性から個性までの幅を養って行きます。</p>					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な曲やジャンル、ステップや表現を駆使し、スタイルごとやミックススタイルのパフォーマンスできるようになる。 ・2学年合同を活かし教えやサポートに触れ学びの幅を養う。協調性や個性を養い身につける。 ・ダンステクニックや基礎技術、全てのパートを含めたフォーメーション、ステージングの習得。 ・体力の向上、リズム感の向上、パフォーマンス、表現力を磨く。 ・グループとして様々な楽曲を創り上げていき、ステージ発表やLIVE WEEKパフォーマンス・表現力、基礎知識や技術の習得。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	1曲目の課題曲での振付・フォーメーションを覚え、ダンスパフォーマンステクニックを身につける。体力の向上、リズム感の向上、ポーズ・踊りの質の向上を行う。2年生が1年生のサポートを行う。
【前期】 5～8回目	2曲目の課題曲での振付・フォーメーションを覚え、ダンスパフォーマンステクニックを身につける。体力の向上、リズム感の向上、ポーズ・踊りの質の向上を行う。2年生がペアで1年生のサポートを行う。
【前期】 9～12回目	3曲目の課題曲での振付・フォーメーションを覚え、ダンスパフォーマンステクニックを身につける。体力の向上、リズム感の向上、ポーズ・踊りの質の向上を行う。グループを回ごとに分け向上を行う。
【前期】 13～16回目	LIVE WEEK リハーサル:これまでの課題曲の振付、フォーメーションを揃え、一体感や自己表現も更に磨き、仕上げる。□
【前期】 17～19回目	課題曲の振付、ダンスパフォーマンス・自己表現を交え発表する。■前期試験:課題曲のダンス実技にて、「振付 / ダンスパフォーマンス / 表現力 / 平常点」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	2年生は去年までのソロプロジェクト内容を活用し理想の構想案を発表。1曲目の課題曲での振付・フォーメーションを覚え、ダンスパフォーマンステクニックを身につける。体力の向上、リズム感の向上、ポーズ・踊りの質の向上を行う。
【後期】 24～27回目	2曲目の課題曲での振付・フォーメーションを覚え、ダンスパフォーマンステクニックを身につける。体力の向上、リズム感の向上、ポーズ・踊りの質の向上を行う。
【後期】 28～31回目	構想案での振付・フォーメーションを覚え、ダンスパフォーマンステクニックを身につける。体力の向上、リズム感の向上、ポーズ・踊りの質の向上を行う。■
【後期】 32～35回目	LIVE WEEK リハーサル:これまでの課題曲の振付、フォーメーションを揃え、一体感や自己表現も更に磨き、仕上げる。□
【後期】 36～37回目	課題曲の振付、ダンスパフォーマンス・自己表現を交え発表する。■前期試験:課題曲のダンス実技にて、「振付 / ダンスパフォーマンス / 表現力 / 平常点」の到達度を確認する。■
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズム・完成度」の2項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ソロでの個性や、ダンスグループの中での協調性や個性の出し方、ダンスパフォーマンス・テクニックを身につけ、楽曲をより魅力的に表現することが出来ます。それと同時に、体力の向上、リズム感の向上、ポーズ・踊りの質の向上、立ち姿やシルエットなどを意識し、曲調に合ったパフォーマンスを見せることが出来ます。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ダンスパフォーマンス実習 I		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル基礎 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ダンスパフォーマンス				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	・TRFツアーバックアップダンサー、中西圭三LIVE R35 バックアップダンサー ・Jean Paul Gaultier 2012,13ファッションショー振付 上記の経歴を活かし、職業として求められる「ダンスと音楽の知識、ダンス技術、表現力等」の指導を行う。				
授業概要					
「パフォーマンスの歴史と体系」とリンクした、体感する実技授業。様々なジャンルに触れながら技術の進化の仕方を習得します。 『ヒップホップ』『ハウス』『ロック』『ジャズ』『バレエ』『フリースタイル』『ソウル』といった各カテゴリーのダンス形態をその特性を学びながら体得していきます。					
到達目標					
・時代、音楽に合わせたダンスを理解する。 ・一つのムーブで歴史的進化を理解する。 ・音楽との関わり方をダンスで表現できる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	1930年代 Jazzに学ぶBasicなダンス
【前期】 5～8回目	1960年代 Soul Musicに学ぶ① / 各部所をリズムを取りながら動かす。
【前期】 9～12回目	1960年代 Soul Musicに学ぶ② / リズムダンスの基礎となるSoul danceの習得
【前期】 13～16回目	1970年代 Funk Musicに学ぶ① / Locking
【前期】 17～19回目	1970年代 Funk Musicに学ぶ② / Popping ■前期試験：課題曲のダンス実技にて、「リズム・完成度」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	1980年代 Disco Musicに学ぶ① / Waack・Punking・Breaking
【後期】 24～27回目	1980年代 Disco Musicに学ぶ② / Party dance
【後期】 28～31回目	1990年代～現代 HipHop Musicに学ぶ① / New Jack Swing
【後期】 32～35回目	1990年代～現代 HipHop Musicに学ぶ① / New School
【後期】 36～37回目	1990年代～現代 House Musicに学ぶ / House ■後期試験：課題曲のダンス実技にて、「リズム・完成度」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズム・完成度」の2項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	「パフォーマンスの歴史と体系」と連動した授業です。映像で見た動きを解析しながら動いて見ましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブ実習 I		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル応用 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	8単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ダンスパフォーマンス				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	ダンスチーム Mool(モール)に所属。福岡を拠点に AKB48、KAZU(BROWN SUGAR)、比花知春、Alice、fumika 等のバックアップダンサーをつとめる。2005年よりダンスをはじめ、2014年よりインストラクター、今日に至る。上記の経歴を活かし、職業として求められる「ダンス技術、表現力等」の指導を行う。				
授業概要					
様々なスタイルの課題を通して、それらが内包するテクニックやリズム、グループフィールやステージング技術の習得を目指すのがライブ実習。ヒットナンバーのパフォーマンスを通してライブ感やステージ対応の更なるグレードアップをはかります。ダンスグループとしての様々な楽曲での振付、ダンステクニックや基礎技術を身につけ、パフォーマンス・表現力を磨きます。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ダンステクニックや基礎技術、全てのパートを含めたフォーメーション、ステージングの習得。 ・体力の向上、リズム感の向上、パフォーマンス、表現力を磨く。 ・グループとして一つの楽曲を創り上げていき、ステージ発表やライブウィークでのヴォーカルを惹きたたせるパフォーマンス・表現力、基礎知識や技術の習得。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～8回目	1曲目の課題曲での振付・フォーメーションを覚え、ダンスパフォーマンステクニックを身につける。体力の向上、リズム感の向上、ポーズ・踊りの質の向上を行う。
【前期】 9～16回目	2曲目の課題曲での振付・フォーメーションを覚え、ダンスパフォーマンステクニックを身につける。体力の向上、リズム感の向上、ポーズ・踊りの質の向上を行う。
【前期】 17～24回目	3曲目の課題曲での振付・フォーメーションを覚え、ダンスパフォーマンステクニックを身につける。体力の向上、リズム感の向上、ポーズ・踊りの質の向上を行う。
【前期】 25～32回目	LIVE WEEK リハーサル:課題曲の振付、フォーメーションを揃え、シルエットや自己表現も更に磨き、仕上げる。
【前期】 33～38回目	課題曲の振付、ダンスパフォーマンス・自己表現を交え発表する。 ■前期試験: 課題曲のダンス実技にて、「振付 / ダンスパフォーマンス / 表現力 / 平常点」の到達度を確認する。
【後期】 39～46回目	1曲目の課題曲での振付・フォーメーションを覚え、ダンスパフォーマンステクニックを身につける。体力の向上、リズム感の向上、ポーズ・踊りの質の向上を行う。
【後期】 47～54回目	2曲目の課題曲での振付・フォーメーションを覚え、ダンスパフォーマンステクニックを身につける。体力の向上、リズム感の向上、ポーズ・踊りの質の向上を行う。
【後期】 55～62回目	3曲目の課題曲での振付・フォーメーションを覚え、ダンスパフォーマンステクニックを身につける。体力の向上、リズム感の向上、ポーズ・踊りの質の向上を行う。
【後期】 63～70回目	LIVE WEEK リハーサル:課題曲の振付、フォーメーションを揃え、シルエットや自己表現も更に磨き、仕上げる。
【後期】 71～74回目	課題曲の振付、ダンスパフォーマンス・自己表現を交え発表する。 ■後期試験: 課題曲のダンス実技にて、「振付 / ダンスパフォーマンス / 表現力 / 平常点」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「振付 / ダンスパフォーマンス / 表現力 / 平常点」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	メインダンサーではなく、ダンスヴォーカルグループの中でのダンスパフォーマンス・テクニックを身につけ、ヴォーカルを惹きたたせながら楽曲をより魅力的に表現することが出来ます。それと同時に、体力の向上、リズム感の向上、ポーズ・踊りの質の向上、立ち姿やシルエットなどを意識し、曲調に合ったパフォーマンスを見せることが出来ます。
備考	